

Event Schedule 2012年4~6月

日付	イベント名	場所	時間
4月8日(日)	きゅーはくミュージアムコンサート「~ KISEKI ~ Piano&Tap」	エントランスホール	①13:00 ~ 13:30 ②15:00 ~ 15:30
4月8日(日)	第10回 はじめての茶道体験 ※要申込 体験料500円(1名) 定員各回10名程度	茶室	①10:00 ~ 11:00 ②13:00 ~ 14:00
4月21日(土)	第16回 親子で茶道体験 ※要申込 体験料500円(親子1組2名) 定員各回5組10名程度	茶室	①10:00 ~ 11:00 ②11:30 ~ 12:30 ③13:00 ~ 14:00
5月19日(土) 6月23日(土)	ガムランワークショップ ※要申込・定員28名(対象:小学生以上)・無料	ミュージアムホール	13:30 ~ 15:30

※上記イベントは予定であり、予告なく変更する場合があります。詳細はホームページやチラシをご覧ください。

Next Exhibition

美のワンダーランド 十五人の京絵師

2012年7月10日(火)~9月2日(日)

今からおよそ200年前の京都では、独創性にあふれる、個性的な表現者たちが競い合うように作品を創り出だしていました。江戸絵画の巨匠である与謝蕪村、池大雅や円山応挙、個性的な表現で関心をあつめる伊藤若冲、曾我蕭白や長沢芦雪。彼らに加えて近年では、渡辺始興や鶴沢派など伝統を受け継いだ正統派の画家たちも高い評価を受けています。この展覧会では、あわせて15名の絵師に光をあて、この時代の魅力的な絵画世界の広がりをご紹介します。百花繚乱たる日本絵画の豊かな世界に出会う絶好の機会をお見逃しなく。



重文 仙人掌鶏図襖(部分) 伊藤若冲筆
江戸時代・天明9年(1789) 大阪・西福寺蔵
展示期間: 7月10日(火)~8月5日(日)

特別展年間スケジュール

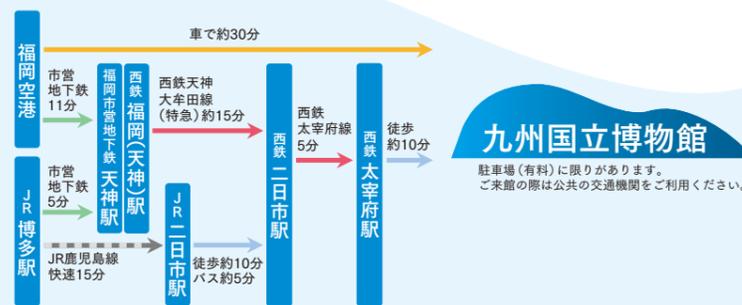
フェルメール in ベルリン国立美術館展

開催期間: 2012年10月9日(火)~12月2日(日)

ボストン美術館 日本美術の至宝

開催期間: 2013年1月1日(火・元日)~3月17日(日)

交通案内



- 開館時間
9:30~17:00(入館は16:30まで)
- 休館日
月曜日 ※4月30日(月・休)、7月16日(月・祝)は開館、17日(火)は休館
- 文化交流展観覧料(特別展は別料金)
一般……………420円(210円) 大学生……………130円(70円)
- 特別展「平山郁夫 シルクロードの軌跡 一人類の遺産にかけた画家の人生」観覧料
一般……………1,300円(1,100円) 高校生・大学生……………1,000円(800円)
小学生・中学生……………600円(400円)

※()内は20名以上の団体料金。※障がい者とその介護者1名は無料。展示室入口にて障害者手帳等をご提示ください。
※高校生及び18歳未満、70歳以上の方は、文化交流展は無料。文化交流展示室入口にて年齢の分かるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証等)をご提示ください。※特別展の観覧料で、文化交流展(平常展)もご覧いただけます。※満65歳以上の方は、特別展については()内料金でご入場いただけます。チケット購入の際に年齢の分かるもの(健康保険証、運転免許証等)をご提示ください。※キャンパスメンバーズの方は文化交流展は無料。特別展については()内料金でご入場いただけます。チケット購入の際に学生証等をご提示ください。
*特別展「平山郁夫 シルクロードの軌跡 一人類の遺産にかけた画家の人生」の開催期間は4/3(火)~5/27(日)です。

info

5月18日(金)
「国際博物館の日」は、
文化交流展の観覧無料!
(特別展は有料)

メルマガ会員募集中!
ホームページで会員登録を。

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
ご案内 NTT/ハローダイヤル
050-5542-8600
※オペレーターが対応します。通話料が発生します。
<http://www.kyuhaku.jp>



Asiage

vol.24

平成24年4月1日発行 発行:九州国立博物館 本誌の全部または一部を無断で複製(コピー)することは禁じられています。

九州国立博物館 季刊情報誌

アジアーヂュ
Asiage
KYUSHU NATIONAL MUSEUM PRESS

vol. 24

特別展 平山郁夫 シルクロードの軌跡

HIRAYAMA Ikuo—Great Traveler and Patron for the Past

—人類の遺産にかけた画家の人生—

2012年4月3日(火)~5月27日(日)

恒久平和への、祈りの道。



画面から伝わる、静かな怒りと情熱

特別展
平山郁夫 シルクロードの軌跡
—人類の遺産にかけた画家の人生—
三輪館長に聞く



仏教の起源に日本文化の神髄を求め、150回以上に及ぶ取材旅行を通じてシルクロードを描き続けた画家・平山郁夫氏。今回の特別展では、その画業とともに、彼が生涯を懸けて取り組んだ文化財保護活動、そして人生にスポットを当てます。平山氏は九州国立博物館の設立前に開かれた有識者会議・基本構想委員会の委員の一人であり、当館の三輪嘉六館長とは文化財保護にも共に尽力してきました。本展の開催を記念し、平山氏とゆかりのある三輪館長に話を聞きました。

文化財保護活動を通して 平和を求めた画家

画家としてだけでなく国際的な文化財保護の現場でも活躍していた平山郁夫氏と、文化庁の鑑査官や東京国立文化財研究所の修復技術部長として長く文化財修復の現場にいた三輪館長とは、それぞれ模写模造のプロ、考古学のプロとして共に仕事をする機会があったといいます。

その中で三輪館長が最も印象に残っているのが、平山氏が20年ほど前に提唱した「在外日本古美術品保存修復協力事業」に参加したときのこと。「明治以降に国外に持ち出された日本の文化財を日本の技術で修理しようというプロジェクトでした。平山先生は単に日本の保存技術を諸外国に伝えるだけでなく、日本流のやり方がなぜいいかという理屈を教えることにも熱心でした」。例えば諸外国では日本の掛け軸は額縁に入れて保存されますが、日本では巻き物にして保存します。これには、洋紙に比べ格段に長い繊維が絡まり合った和紙は巻いても破れることがなく、光による色あせなどの劣化を防ぐことができるという理屈があるのです。「平和な世の中だからこそ伝え続けることができる」というのも、先生が一貫して主張されていたこと。文化財保護活動に平和や国際協力、人々の豊かな心持ちまでも真摯に求めた先生の姿勢は、われわれ研究者とは一味違ったものでした」



破壊されたバミヤン大石仏
平山郁夫筆 2003年
広島・平山郁夫美術館蔵

バミヤンは平山氏が150回を超える取材旅行で最初に訪れた場所でもあります。平山氏は破壊された大石仏を復元せず、負の遺産として現状保存するように主張しました

そんな平山氏の思いを象徴する作品の一つが、2003年の『破壊されたバミヤン大石仏』。内戦下のアフガニスタンで平山氏が保存を訴えたバミヤンの大石仏は2001年、偶像崇拜を禁止するイスラム原理主義タリバーン政権によって砲撃、破壊されてしまいました。「当時、平山先生が涙を流して残念がっておられたのを覚えています。破壊された大仏を捉えたこの作品は、“負の遺産にも文化や歴史を見なければならぬ”

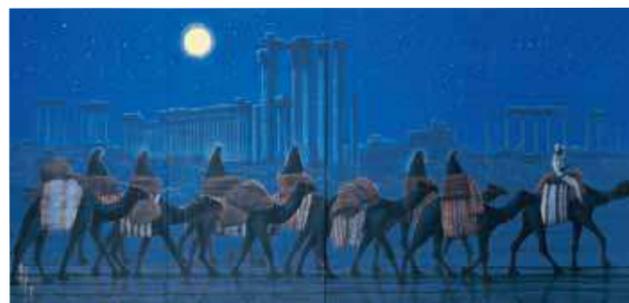
と訴えた平山先生らしい作品。今回の特別展でそうした先生の思いの一端を皆さまに伝えられれば」と期待を込めます。

平山作品の根底にある “静かな情熱”

穏やかな中にも、燃えるような情熱のある人。平山氏の人柄をそう表現する三輪館長。「先生の絵には、尊大なものがないでしょう。作品にも決してギラギラとした主張があるのではなく、平和や友情といった静かに燃える情熱が描かれている。だからこそ、多くの人の心に届くのでは」

大胆な構図にたっぷり色塗り込まれているのが平山作品を代表する本画ですが、今回の特別展では、150回以上にわたる取材旅行を通して描かれたスピード感あふれるスケッチも目にすることができます。「平山先生がスケッチする様子も何度か現場で見ましたが、それがものすごく早い。サラサラッと感性で描いて、それでいて非常に精度が高いんです。隣にはいつも「はい、色鉛筆」と絶妙のタイミングで画材を手渡す妻・美知子さんの姿があったといいます。

また平山氏が20年以上心血を注いだ巨大壁画『薬師寺玄奘三蔵院壁画』を制作中のアトリエを訪ねたことも。数々の困難に耐えてインドにたどり着き、大量の経典を祖国に持ち帰ったといわれ



バルミラ遺跡に行く・夜
平山郁夫筆 2006年
山梨・平山郁夫シルクロード美術館蔵

三輪館長が好きな作品の一つ。「バルミラはシルクロードの名前の由来となった中国・漢代の絹が最初に発見された地。どうしても描きたかった平山先生の思いが伝わります」

る中国の僧・玄奘(三蔵)法師の旅路を描いたもので、その日の平山氏は壮大に描かれたヒマラヤ山脈のどこに玄奘法師を歩かせるかを思案しているようでした。「玄奘法師の模型を紙で作って、いろんなところに置いては理屈に合わん、と悩み込む。この光景には感動しました。一つの絵を、まさに全霊を傾けて描かれていたという印象です」

九州国立博物館の基本構想委員会では、「常に生きている博物館であってほしい。そういう博物館をぜひつくってください」と強く主張していた平山氏。「館の真の活動を見てもらうのはまだこれからですが、今回の特別展で、博物館の一つのテーマでもある文化財保護に一画家がどんな努力をしたのか、彼に先導されて世界はどう動いたのか。そして平山先生の遺志が今も生き続けているということを感じてほしいですね」

特別展
平山郁夫 シルクロードの軌跡
—人類の遺産にかけた画家の人生—
HIRAYAMA Ikuo—Great Traveler and Patron for the Past—
2012年4月3日(火)~5月27日(日)



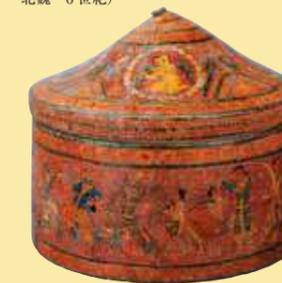
シビ王本生壁画模写

段文傑筆 中国 甘肅省 敦煌研究院蔵
(原品 中国 甘肅省 敦煌莫高窟 254窟壁画
北魏 6世紀)



ナーガ上の仏陀坐像

アンコール時代 12世紀
カンボジア アンコール・トム
東京国立博物館蔵



舍利容器

6~7世紀 中国
新疆ウイグル自治区クチャ スパシ
東京国立博物館蔵

九州国立博物館
三輪嘉六 館長

みわ かるく
1938年岐阜県生まれ。奈良国立文化財研究所、文化庁主任文化財調査官、東京国立文化財研究所修復技術部長、文化庁美術工芸課長、同文化財鑑査官、日本大学教授などを経て、2005年4月から現職。専門は考古学、文化財学。文化財保存修復学会会長、NPO法人文化財保存支援機構理事長なども務める。

トピック展示 Part 1

中国陶磁名品展 横河民輔コレクション

期間/2012年4月24日(火)～9月2日(日)
場所/関連展示第9・10室

8000年の歴史を持つといわれる中国陶磁は、あらゆる陶磁器の起源とさえいわれ、アジアのみならずヨーロッパやイスラムの陶磁にも深い影響を与えてきました。

これまで通史的に揃うことがあまりなかった中国陶磁の世界を紹介する機会が実現。東京国立博物館が所蔵する「横河民輔コレクション」がついに九州にやってきます。

建築家で実業家の横河民輔氏が戦前に東京国立博物館へ寄贈した1100件あまりの膨大なコレクションは、古代から清時代までの重要文化財4件を含む学術的にも貴重な作品が多く世界有数のコレクションといえます。この中から選りすぐりの優品を、一度では語りつくせないのので前期と後期に分けて展示します。

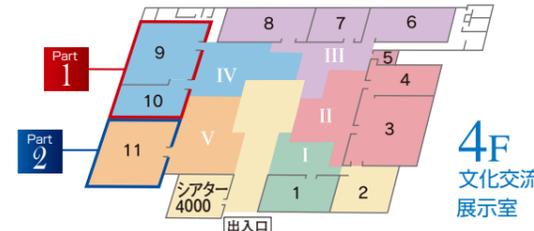
一堂に会するのは九州初となる横河民輔コレクションを通じて、中国陶磁の壮大な歴史と陶磁の「美」をご堪能ください。

横河民輔 (1864～1945年)

横河電機や横河ブリッジの創始者。帝国劇場や三越本店などの建築物を手がけた「日本鉄骨建築の先駆者」でありながら、古陶器の収集家としても知られる。東京国立博物館に寄贈された横河民輔コレクションは、名品だけでなく、資料的にも重要なものを蒐集し、世界的にも高い評価を得ている。

上半期の大型企画！ これを見れば 「中国陶磁のすべて」がわかる！！

最初で最後のチャンス



前期 古代から唐・宋・元時代のやきもの

4月24日(火)～6月17日(日)

★ 古代の土器・陶器から唐時代の華やかな三彩、そして、宋・元時代の中国各地で花開いた名窯の数々を展示します。★

「三絶 (並ぶことのない名品)」と呼ばれた傑作！

重要文化財
三彩貼花龍耳瓶
唐 8世紀

民窯らしい多彩な文様に注目！！

重要文化財
白釉黒地白花牡丹文枕
磁州窯 北宋 12世紀

後期 明・清時代のやきもの

6月20日(水)～9月2日(日)

★ 景德鎮窯で生まれ鮮烈な青の文様が美しい青花。隆盛を極めた明・清時代の五彩や粉彩を展示します。★

イスラム圏に多く輸出された可憐なデザイン

重要文化財
青花束蓮文大皿
景德鎮窯 明 15世紀

色鮮やかで緻密なタッチに注目

重要文化財
琺瑯彩梅樹文皿
景德鎮窯 清 18世紀(雍正年間)

「中国磁器名品展 横河民輔コレクション」関連イベント

特別講演会
1F ミュージアムホール
5月12日(土) 14:00～15:30
「横河民輔コレクションの中国磁器とその魅力」
講師/今井敦(東京国立博物館)
東京国立博物館で中国陶磁を専門とし、長年、横河コレクションに接してきた今井敦氏がその内容と魅力を語ります。先着280名、当日受付、参加無料。

中国陶磁史を究める!! 連続講座
1F 研修室
前期
5月19日(土) 14:00～15:00
「南北朝から唐のやきもの」
講師/市元豊氏(九州国立博物館)
5月26日(土) 14:00～15:00
「宋・元のやきもの」
講師/遠藤啓介氏(九州国立博物館)

後期
7月14日(土) 14:00～15:00
「明のやきもの」
講師/三笠崇子氏(東京国立博物館)
7月28日(土) 14:00～15:30
「清のやきもの」
講師/今井敦氏(東京国立博物館)

中国陶磁の歴史と魅力、最新の研究成果などを交えて紹介。先着50名、当日受付、参加無料。

ミュージアムトーク
4F 文化交流展示室 関連展示第9・10室 各日15:00～15:30

前期 4月27日(金)、5月11日(金)、6月1日(金)
後期 6月29日(金)、7月27日(金)、8月10日(金)

担当研究員が展示作品の見どころをガイドします。参加無料(ただし文化交流展の観覧料は必要)。

私はこのコレクションに出会い中国陶磁にハマりました。皆さんもきっと素敵な出会いがあるはずです。会期中はたくさんのイベントも開催します。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



教科書でおなじみの「解体新書」がやってくる!

トピック展示 Part 2

日本医術のことはじめ —まじないから解体新書まで—

期間/2012年5月9日(水)から7月1日(日)
場所/関連展示第11室

古代のまじないで使用された人形から近代医学のはじまりを告げた「解体新書」まで、医学をテーマにした九州初の展覧会。さらに今回は、解体新書の90年前に日本で初めて翻訳された解剖書が、福岡市・原三信病院のご協力により出品されます。時代を超えた人々の健康への願いと日本医術の歴史をご覧ください。



ターヘル・アナトミア (Ontleedkundige Tafelen)
オランダ 1734年
東京医科歯科大学図書館蔵

九州初公開。ドイツ人医師ヨハン・アダム・クルムスが著した解剖書のオランダ語訳。1771年、前野良沢や杉田玄白らは本書を手に刑死人の解剖に立ち会い、その正確さに驚いて翻訳を決意しました。

解体新書
江戸時代 1774(安永3)年
東京医科歯科大学図書館蔵
前野良沢や杉田玄白らが「ターヘル・アナトミア」を翻訳し、出版。本書の翻訳を通じてオランダ語の理解が進み、蘭学が盛んに。その訳語の多くは日本の近代医学に引き継がれました。

健康への探求心は今も昔も変わらないもの。「解体新書」とその原本「ターヘル・アナトミア」を同時に見られるまたないチャンス。必見です。



5月9日(水)、29日(火) 15:00～
トピック展示会場内でミュージアムトーク開催

トピック展示スケジュール 7月～2013年3月 関連展示室を使い、様々なテーマで期間限定の展示を行っています。

トピック展示名称	内容	開催期間
日朝交流の軌跡 —対馬宗家文書8万点の調査を終えて—	江戸時代に日朝外交を担当した対馬藩主宗家に伝わった資料群、8万点のなかから選りすぐりの品々を紹介いたします。	7月4日(水)～9月9日(日)
茶の湯を楽しむV —芦屋釜と館蔵茶道具—	秋の恒例企画。芦屋釜を中心に茶道具の魅力に迫ります。	9月12日(水)～12月9日(日)
江蘇省書画精華展	福岡県と江蘇省の友好締結20周年を記念して、南京博物院・鎮江焦山碑刻博物館の優品を特別公開します。	10月23日(火)～12月2日(日)
武雄唐津の魅力 (仮称)	「武雄唐津」の魅力とその広がりを紹介します。	未定
江戸の粋、印籠 フィンランド・クレスコレクション (仮称)	日本が誇る優れた装飾美術である印籠。フィンランドの世界的にも著名なクレスコレクションを日本で初めて公開します。	12月18日(火)～2013年3月10日(日)
新春特別公開 徳川美術館所蔵「国宝 初音の調度」	新春企画。徳川美術館所蔵の「初音の調度」を特別公開します。	2013年1月1日(火・祝)～27日(日)
「雪と火焰土器 ～進化する博物館Ⅲ 五感で楽しむ博物館へ～」 (仮称)	縄文土器の代表である火焰土器は、なぜ雪深い場所で生まれたのか。その謎に迫ります。	2013年1月22日(火)～3月17日(日)

※タイトル・期間は変更になる場合があります。ご了承ください。

博物館の“ウラ”も“オモテ”も物知りボランティアがガイドします

「館内案内ボランティア」は、九博の“ウラ”のガイド役。博物館の機能や設備をガイドします。また、毎週日曜日に開催する「バックヤードツアー」では、地震の揺れを軽減して展示物の落下を防ぐ防震装置や、文化財が傷まないよう細心の注意を払って保管する収蔵庫、文化財の調査や修理をするための文化財保存修復施設などを楽しい解説付きで案内してくれます。

九博の“オモテ”、4F文化交流展示室を案内してくれるのは「展示解説ボランティア」。展示室の入口と展示室内の2カ所に常駐しているので、いつでも声をかけてください。アジアと日本の交流の歴史について理解が深まり、展示室巡りが一層楽しくなるはずです。



展示案内 参加無料
 ■所要時間/約40分
 ■受付場所/展示案内受付カウンター(4F文化交流展示室入口)

バックヤードツアー 参加無料

- 実施日時/日曜日 14:00～(約50分間)
 - 受付場所/ボランティアガイド受付カウンター(1F あじっば前)
 - 受付時間/当日の12:00～14:00(受付後は13:50に受付カウンターへ)
 - 定員/30名(先着順)
 - コース/あじっば前→免震層→収蔵庫→文化財保存修復施設→総合案内所
- ※収蔵庫、文化財保存修復施設は窓越しの見学

館内案内 参加無料

- 所要時間/約15分
- 受付場所/ボランティアガイド受付カウンター(1F あじっば前)



茶室見学ツアー 参加無料

- 実施日時/日曜日 14:00～(約40分間)
 - 受付場所/ボランティアガイド受付カウンター(1F あじっば前)
 - 受付時間/当日の12:00～14:00(受付後は13:50に受付カウンターへ)
 - 定員/10名(先着順)
 - コース/あじっば前→茶室
- ※受け付けの際に「茶室見学ツアー」とお伝えください
 ※茶室でのイベント開催日や雨天時では実施しません
 ※ボランティアの活動状況によっては実施できない場合もあります

問い合わせ 九州国立博物館 交流課
 ☎092-929-3289

太宰府歴史さんぽ

霊峰・宝満山の麓 縁結びの神社で春満喫

大宰府政庁設置の際の鬼門除けとして673年に創建されたと伝えられる神社。主祭神は玉依姫命で、若い女性を中心に母性愛の神様、縁結びの神様として親しまれています。境内には好きな人との再会を祈れば願いがかなうといわれる「再会の木」や、目を閉じて歩いて無事にもう一方の石にたどり着けば恋がかなうという一対の霊石「愛敬の岩」があり、春は桜、秋は紅葉の名所としても知られています。



写真提供：太宰府市



かまど 竈門神社
 太宰府市内山 883
 ☎092-922-4106

あじっばであそぼ!

アジアの青を比べて、発見 あじ庵で「青展」開催中!

あじっばの展示スペース「あじ庵」が真っ青に!? 青好きのスタッフが企画した「青展」は、アジア諸国の青い工芸品を集めた展覧会。中国で生まれ、世界中がこぞって真似をした白地に藍色の染付や、透明感あふれる青の青磁。国や技法や顔料によって、さまざまな表情を見せる青の奥深さを感じてください。

中国
元の時代、染付が始まったころの作品を再現。

日本
なぜか途中までしか絵付けされていない有田焼。あなたなら、この空白に何を描く?

中国
幻の青磁・汝官窯の香炉(レプリカ)。「雨上がりの空の色」に例えられる美しい青を再現。

ウズベキスタン
イスラームの神学校の壁を飾っていたタイルの一部。イスラームの建築には青が多く使われます。

ベトナム
粘土が違うため、白地や藍の色合いが中国の染付とは大きく異なります。

日本
藍色の濃淡や繊細に織り込まれた花柄に高度な技術が。久留米絨作家・松枝哲哉氏の作。

ぜ〜んぶ、金属の粉を原料とする“青の素”! どの焼き物にどれが使われているのか、展示でチェック

あじぎやら速報

はらのむし図鑑「針聞書」展示中 [4月15日(日)まで]

あじっば奥のギャラリー「あじぎやら」では、戦国時代の医学書「針聞書」を展示中。当時、病気や体の不調の原因と考えられていた“はらのむし”が、体の中のどこにいて、どんな悪さをするか、またその虫を退治する方法などが書かれています。へびや亀、魚、昆虫などに似た“キモかわいい”虫たちに会いに行きませんか。

“はらのむし”を退治するための薬。においを嗅いでみよう!

“はらのなかつごらく”や“はらのむし”を描いて遊べるスペースも



針聞書(胸虫・小児の虫)
 1568年 九州国立博物館蔵

※針聞書は5月9日(水)から7月1日(日)まで開催する文化交流展トピック展示「日本医術のことはじめ〜まじないから解体新書まで〜」でも展示します

おすすめ九博名物

ミュージアムショップ

端午の節句グッズが充実

九博グッズだけでなく、季節の品も多彩にラインアップしているミュージアムショップ。5月初旬まで端午の節句にちなんだかわいい工芸品を販売中。

張り子(金太郎と鯉のぼり) 1,260円
 ゆらゆら前後に揺れる、手のひらサイズの張り子人形。

ロンちゃんだんご 630円
 お茶のお供に一口サイズのごま団子はいかが?

手ぬぐい(五色鯉) 1,260円
 手ぬぐい独特の色合いがおしゃれ。額装してインテリアに。

レストラン・グリーンハウス

営業時間/11:00～16:00(特別展期間中は～17:00)

シルクロードの風香る春色パスタ

ナスやズッキーニ、キャベツなどの野菜とカジキマグロがたっぷり。インドなどからシルクロードを通じてもたらされ、中世ヨーロッパでは金の価値に相当するほど珍重されたといわれるブラックペッパーがアクセント。また、シルクロードの国々をイメージした多彩な料理が味わえる「アトリエ弁当〜シルクロードの旅〜」(2,100円)もおすすめです。

特別展の期間限定目にも鮮やかな一品



春野菜とカジキマグロのトマトソースパスタ(スープ、サラダ、コーヒー付き) 1,890円